

## 『紹介患者の連絡方法についての調査のまとめ』別添資料参照

「紹介患者のうち早くに対応を依頼したい場合／連携パス患者の連絡方法について」の調査を致しました。

1. 緊急事態(直ぐに対応)は、今まで通り代表から救命救急センターor各科医師に電話を繋ぎます。
2. 準緊急時(2-3日中の受診)は、代表より各科医師(別紙の通り)に電話を繋ぎます。
3. 地域開業医の先生方に、各科医師からのメッセージです。

## 講演会スケジュール

当院におけるがん関係の講演会スケジュールです。院内、院外問わず是非ご参加下さい。希望者は同封されている参加申込み書の提出をお願いします。

### ①緩和ケア基礎研修会

- 「日時」 研修課程A)平成23年1月30日(日) 9時～18時  
 研修課程B)平成23年2月6日(日) 8時～18時  
 \*単位型なのでA1日のみの参加も可能です。
- 「場所」 安房地域医療センター2階会議室
- 「募集」 30名(12/20㍻定員になり次第締め切り)

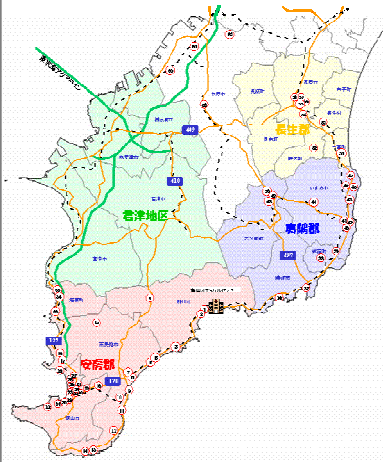
### ②がん関係講演会

- 「日時」 平成23年2月10日(木) 18時～19時30分
- 「場所」 亀田総合病院内 Kタワー13F ホライゾンホール
- 「テーマ」 がんのリハビリテーション
- 「演者」 静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科部長 田沼 明先生

### ③第3回がんケアフォーラム

- 「日時」 平成23年2月12日(土) 13時30～16時30分
- 「場所」 亀田総合病院内 Kタワー13F ホライゾンホール
- 「テーマ」 スピリチュアルケアについて
- 「演者」 元上智大学 アルフォンス・デーケン先生  
 他現在調整中

## 地域連携WEBサイトの作成におけるお願い



医療機関の地域連携の効率化を目指し、連携医療機関情報(医師情報、対応診療科・メールなど)をまとめたWEBサイトの作成を考えております。

連携医療機関の皆さまには、現在お配りしておりますプロフィールや写真のご提供を頂きたく大変厚かましいのですが、ご協力お願い致します。既に提出頂いた順にアップして参りますのでご了承下さい。

## がん地域連携室スタッフよりご挨拶



総合相談室  
ソーシャルワーカー 児玉 照光

ソーシャルワーカーの主な業務は制度紹介や自宅退院、転院の調整を行っております。

その為、福祉・医療機関などにご相談をさせて頂くことが多いです。現在、がん地域連携室の一員として地域の医療機関等に直接伺う機会が増え、電話や紙面などの情報のやり取りだけでなく、「顔の見える関係」が必要なんだと今まで以上に感じております。今後とも皆さまと共に地域医療や福祉を支えていければと思いますので宜しくお願い致します。

## 三河のつばき

函館では地域医療のロールモデルの一つを勉強してきました。やはりネットワークなどのツールを使いつつも結局は「顔の見える関係が大事」と実感しました。今回は皆さまからニーズが多かった、当院との連絡方法のまとめを添付させていただきました。皆さまの診療のお役に立てば幸いです。今後も地域と当院の関係、役割をみつめて仕事を進めて参ります。ご意見・ご感想もお待ちしております。



がん地域連携室 室長  
三河 貴裕

## 【地域連携パス実践病院の視察報告】

函館五稜郭病院と北美原クリニックを訪問視察して参りましたので報告致します。

### ①北美原クリニックを11月5日(金)12:00に訪問し、理事長の岡田晋吾先生に実情を伺うことができました。

函館五稜郭病院が「がん診療連携拠点病院」として特に胃がんの連携をされておられました。開業医にとって連携パスに参加するメリットを示せるかどうか成功のポイントだとおっしゃっていました。

- ・モチベーションの維持
- ・新しい抗がん剤や考え方など情報を聞ける
- ・顔を見ているとやり取りしやすい
- ・聞きたい所を集中的に聞いて無駄がない
- ・患者さまは夜でも診て貰えるので信頼を持って頂けるし、1年後には必ず検査の為、拠点病院に戻るので安心してもらえる。モチベーションの高い意識を持った医師が集まればいいものができるはずだとおっしゃっておられました。診療所側からの発表は少ない為、「がん診療における診療所の役割と地域連携の必要性」を語る岡田先生は貴重な存在となっていて、全国依頼があれば講演して回っておられました。

### ②函館五稜郭病院を11月5日(金)15:00に訪問し、高金医師他関係者皆さまのお話を伺うことができました。

企画・運営を事務方(元医療ソーシャルワーカー)さんが管理されているという特殊なスタイルの病院でした。地域医療連携室・退院サポート室・訪問看護室・医療相談室・がん相談支援室・持参薬管理・栄養サポート等ハットコントロールも全て1フロアに集め、センターとして一括管理されておられました。マニフェスト作成から4年かけ、かなり勉強して現在に至ったそうです。定期的な開業医との情報交換を年8回訪問カンファレンス、定期的な回復期病院との情報交換を年5回、症例検討会を年1回開催されていました。地域住民にも自院の診療スタイルをアピールするため年2回健康講座を開催し、連携パスの必要性や有用性、新規連携先開拓の営業活動も1日ばかりで遠征し、顔の見える医療連携を実践され実情把握に努めておられました。

亀田総合病院がん拠点病院推進センター  
 発行責任者: 亀田 信介  
 編集責任者: 唐鎌 房子  
 TEL: 04-7099-1230(内職3248)